

## 国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

## 【実践者】

授業者氏名	杉山 拓哉	学校名	北海道興部高等学校
教科（科目）・領域	地歴公民科 地理総合	対象学年（人数）	1年A組（15名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2022年10月中旬～11月初旬（8時間）		

## 【実施概要】

1. 単元名(活動名)：アルゼンチンから学ぶ多文化共生					
2. 実践する教科・領域： 地歴公民科 地理総合 「世界の多民族・多文化社会」	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： ①アルゼンチンには多様な生活文化が存在することを理解する。 ②多面的・多角的な視野をもちながら、歴史・生活・日本との関わりについて調べ、発表する。 ③共生を図るにはどうしたらよいかについて主体的に考え、日々の暮らしの中で生かそうとする。					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	アルゼンチンの多様な生活文化を理解している。			
	②思考力、判断力、表現力等	多面的・多角的な視野をもって、歴史・生活・日本との関わりについて考察し、表現している。			
	③学びに向かう力	共生を図るにはどうしたらよいかについて主体的に考え、日々の暮らしの中で生かそうとしている。			
6. 単元設定 の理由・単元 の意義 (児童/生徒観、 教材観、 指導観)	<p>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</p> <p>日本もすでに多文化社会に入っており、私たち日本人と外国人が共生していくために、何をすべきか、どのような態度をもつべきか考え行動すべき時代である。今回、ラテンアメリカの学習を通し、日本と関わりの深い日系移民についてや多民族・多言語の背景を学ぶことにより、「共生」という言葉の意味について考えさせたい。</p> <p>【児童/生徒観】</p> <p>本校は北海道のオホーツク海側の興部町に位置しており、地域的にも流氷が到来する時期以外では、外国人との関わりが非常に少ない背景がある。また、大学への進学というよりは、就職や専門学校への進学に向けて、社会人として生きていくための教育に主眼が置かれ、地域に根差した教育活動が日々行われている。生徒としては、成功体験が少なく、自己肯定感を持ってない生徒が多い一方で、授業の内容には興味を持って意欲的に取り組む側面も見られ、教師の指導を素直に受け取る生徒が多い印象である。</p> <p>【教材観】</p> <p>本科目である地理総合は、本校では初めて科目として本年度設定された。地理総合では、国際理解や国際協力が重視され、SDGsとの関連づけも必要とされる。日本から見て地球の裏側に位置する南米であるが、日系の方々が多く暮らしている状況を考えて、私たちが深い理解を行うことは、「共生」を考えていくために必要であると捉えている。</p> <p>【指導観】</p> <p>本校の生徒は、SDGsについての知識や地理的知識についても浅い生徒が多い。だからこそ、「知らない」国について触れることは、学びを深めるには重要であると考えている。</p>				

	<p>ただ、「知らない」からこそ、自分ごとに引き寄せる段階を踏まなければ、「他人事」になってしまい、共生を考えていく上での1つのハードルになってしまう。</p> <p>そのために、教材選びは慎重に行い、段階を経てグループワークにつなげなければならないと思い、単元の構成を以下のように設定した。</p>		
<b>7. 単元計画 (全8時間)</b>			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsについて、実生活と関連付けながら理解を深める。</li> <li>トレードオフの解決方法を考案することを通し、課題解決の手法について学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の何気ない学校生活での行動が、SDGsの何番に関連するかについて、ペアワークでの考察を通して学習する。</li> <li>SDGs カードゲームを行う。</li> </ul>	THE SDGs Action cardgame「X (クロス)」(金沢工業大学)
2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べた結果を共有し合い、アルゼンチンの歴史・生活・日本とのかわりについての理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「歴史」、「生活」、「日本との関わり」の3チームに分かれ、調べ学習及び発表を行う。</li> </ul>	『2022 データブック オブ・ザ・ワールド』(二宮書店)
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>日系の人々がアルゼンチンを始めとするラテンアメリカに渡ったのはなぜか理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いみんトランクの中身を見る。</li> <li>中南米移住地記録写真集から、日系移民の生活を想像する。</li> <li>JICA が発行している資料から、世界で日系の方々が活躍していることを読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いみんトランク</li> <li>中南米移住地記録写真集 1964</li> <li>JICA 「各地に広がるニッケイ・ネットワーク」</li> </ul>
5・6	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒と研修生との間の交流を通し、異文化理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JICA 研修生カローリーナさんと交流する。(想定される交流内容)</li> <li>自己紹介</li> <li>アルゼンチンでの生活について</li> <li>なぜ日本を訪れることになったのか</li> <li>日本で成し遂げたいこと</li> <li>日本について理解が難しいこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JICA 帯広との連携</li> </ul>
7・8 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに「共生」を図っていくためには、どのような考え方が必要であるかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>亜島さんが楽しく学校生活を送れるためには、どうしたらよいかをグループで考える。</li> <li>文化摩擦の事例について、まず個人で、次にグループで共有した後、発表する。</li> </ul>	

<b>8. 本時の展開 (概略)</b>			
<p>本時のねらい：日本とラテンアメリカ、特にアルゼンチンとの歴史や生活文化の違いについて再確認しながら理解を深め、「共生」という意味や、どのように図っていくべきかということについて深く考え、発表する。</p>			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (10分)	<p>「JICA 研修生との交流を通して気づいたこと・考えたことはどんなことですか？」</p> <p>→個人ワークの後、ペアワークで共有を図る (予想される回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本とアルゼンチンの生活環境の違いについて知ることができた。</li> <li>日系の人々がアルゼンチンで苦勞していることがわかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間巡視の上、まとめに困っている生徒がいれば、適宜助言を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> </ul>

<p><b>展開①</b> (30分)</p>	<p>「日系人の高校生である亜島マリオさんが、アルゼンチンから興部高校1年A組に入学してきました。日本語が理解できず困っており、他学年の生徒からもからかわれたり、授業も理解できず、興部町での生活も辛いものになっています。</p> <p>亜島さんが楽しく学校生活を送れるためには、どうしたらよいのでしょうか？」</p> <p>→アルゼンチンについて調べた際のグループに再度分かれる。 (「歴史」「生活」「日本との関わり」のグループ) 3つのグループそれぞれにおいて、学んだことや研修生からの話を基にして、解決方法を考える。また、全体発表を行う。 (予想される回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの歴史を紹介し合いながら、コミュニケーションを取る。</li> <li>・日本での生活のルールを伝えたり、アルゼンチンでの生活のルールを尋ねることで、共通点を見つけ、それをルールとし、すれ違いが生じないようにする。</li> <li>・(経済援助などで)日本が助けているだけでなく、(日本にはない物資について、輸入を通して)助けてもらっていることを知った上で、交流を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んだ事をグループごとに再確認させ、それぞれのテーマに基づく答えにするように促す。</li> <li>・登場する人物の家族構成や日本に來日することになった経緯を架空で設定することにより、具体的なイメージをもたせる。</li> <li>・教員からのコメントについては、学びが深まる助言を目指したい。</li> </ul> <p><b>ラテンアメリカでの「共生」</b> スペインやポルトガルからの植民者には単身者が多かったため、先住民との混血が進んだ(図3)。また、19世紀末からは日本を含めたアジアからの移民が増えて、さらに混血が進んでいる。ブラジルのように、さまざまな文化をもつ人々が混ざり合い共存するようすを「人種のるつぼ」とよんでいたが、近年は、先住民、黒人、白人といった区分は意味をもたなくなっている。</p>	<p>・ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">亜島 マリオさん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族構成 父(日系)、母(日系)、マリオさん、妹(日系)</li> <li>・日本に來た経緯 父が働いている会社で興部へ転勤。それに合わせて一家で興部町に住むことになった。</li> <li>・マリオさんの心遣は？ 日本語があまり話せず、コミュニケーションに困っている。</li> </ul> </div> <p>(亜島マリオさんの家族構成)</p> <p>(教科書の記述より)</p>  <p>アルゼンチンに作られた鳥居の前で写真に写る現地の人々</p>
<p><b>展開②</b> (20分)</p>	<p>「それでは、ここで事例を紹介します。まず個人でワークシートに書き、その後グループで意見を共有しましょう。」</p> <p>&lt;事例Aについて&gt;</p> <p>『このような発言に対して、Aさんはどのような気持ちだったのでしょうか?』</p> <p>(予想される回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何気ない言葉であるが、バカにされているようですごく傷ついたと思う。</li> <li>『BさんやCさんの発言についてどう思いますか?』</li> <li>(予想される回答)</li> <li>・なぜわざわざ顔の色について言うのかわからない。</li> <li>・出身国だけでサッカーができると決めつけている。</li> <li>・肌の色で差別しているように思う。</li> </ul> <p>&lt;事例Bについて&gt;</p> <p>『このときのTさんの気持ちはどのような気持ちだったのでしょうか?』</p> <p>(予想される回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ自分だけが注意されるのか、理由がわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視をしながら、議論が止まっているグループには、声掛けを行いながら議論を深めさせたい。</li> </ul> <p>アルゼンチンから來日した肌の黒い興部高校1年生Aさんは、ある日教室でBさんとおしゃべりしているとき、Bさんに、「このペンケースの色、なんかお前の顔の色に似ているよね。」と言われました。別日には、Cさんに「なんでサッカーが有名な国から來たのに、サッカーができないの?」と言われました。</p>	<p>・ワークシート</p> <p>(事例A)</p> <p>(事例B)</p>

・外国人だから間違っただけをやるだろうという決めつけはやめてほしい。

『なぜこのようなことが起こってしまったのでしょうか?』

(予想される回答)

- ・先輩の(単純な)確認ミス
- ・外国人だった Tさんが捨てたと一方的に決めつけたから。
- ・先輩は、同じクラスに所属する人たちには言えず、後輩の中でも注意しやすい外国人の Tさんを選んだのではないか。

展開③  
(25分)

『「共生」とはどのような意味を持つ言葉でしょうか?』

→新たにグループを構成し直し、そのグループに「歴史」「生活」「日本との関わり」のチームに所属していたメンバーをまんべんなく配置する。

(予想される回答)

- ・障害あるなし関係なく、日本人関係なく、外国人が共に生きていくこと
- ・最近であれば、LGBTなども共生に入るのでは?

『そうですね、マイノリティの人たちも受け入れる社会のことでよね。』

『では、そのような社会を創っていくために必要なことはどんなことでしょうか?』

(予想される回答)

- ・差別をしないように今後気を付ける
- ・周囲の人たちのことを理解できるよう、交流を深めていく
- ・全てを多数決で決めるのではなく、少数の意見も大切にする

まとめ  
(15分)

『みなさんは、これまでの授業で「共生」の意味について突き詰めて考えることができましたね。』

『授業前と授業後で、自分の考えにどのような変化がありましたか?』

『その際、今後生活していく中で意識すべきことや、授業を通して生まれた課題や問題点なども踏まえて記入しましょう。』

→ワークシートに記入し、時間があれば互いに共有し合う。

(予想される回答)

- ・一言で「共生」と言っても、他国の人々と同じ空間で過ごす際、お互いが快適に生活できる配慮は難しいと感じた
- ・相手が外国人など関係なく、差別や偏見などを無くしていき、普段の生活における会話にも気をつけていきたい。

<事例A>



(各グループに配布したイラストの例)

・それぞれのテーマごとに学習していたことを踏まえながら、グループごとに知恵を出し合いたい。

・ワークシート

○ 日本人が外国のことを学ぶ必要性

- ・「同じって嬉しい」「違うって楽しい」など、同じ点や違う点を知ることで、互いに違いを認め合うことができるようにすることが大切である。
- ・「互いを知る」「知るによって相手を理解する」、「理解することによって、更なる支援ができる」。そのためには、日本人側がもう少しオープンマインドで触れ合うという活動をする必要がある。

○ 学校教育で「やさしい日本語」を使う

- ・「やさしい日本語」を使えないのが日本人である。教員も使えていないかもしれない。保護者に伝わるようにすれば、保護者も対応できるようになる。
- ・国際交流協会でも夏休みに研修会を設けているが、なかなか教員に参加してもらえない。教員にも国際マインドを持ってほしい。
- ・都市部だけでなく、どの地域においても外国籍の児童生徒が来ることを想定していただき、学校中で環境を作ってほしい。

(令和3年3月 埼玉県社会教育委員会議「令和元・2年度埼玉県社会教育委員会議における議論の整理」より)

・教員が机間巡視をしながら、記入したことに共感的理解をしながらさらなる助言を行いたい。

・ワークシート

・まとめでは、「共生」の捉え方について、この授業をもって完結するというよりは、むしろ葛藤をかかえたり、授業後にも自問自答できるよう、問いかけや声掛けに配慮したい。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通な言語で話せるようにならなければ、お互いに歴史や文化の理解が難しいと感じる。英語をしっかりと学習したい。</li> </ul>		
<b>9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を再確認しながら、日本とラテンアメリカの歴史や生活文化の違いについて理解している。（観察・ワークシート）</li> <li>・今後の「共生」のあり方について、考えて記述し発表している。（観察、ワークシート）</li> </ul>			
<b>10. 学習方法および外部との連携</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA帯広（アルゼンチン研修生紹介、授業支援）</li> <li>・JICA海外移住資料館（いみんトランク、中南米移住地記録写真集貸出）</li> </ul>			
<b>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度はJICA北海道主催の「教師国内研修」に参加し、JA北オホーツクや道立流氷科学センターとの連携により、SDGsを興部高校としてどう広めていくかについての実践を行った。</li> <li>・今回の授業を通し、教科間連携（主に家庭科）を通じ今後も開発教育を広めていく予定である。</li> <li>・本学年である1学年だけではなく、2・3学年における地歴公民科の授業でもSDGsや国際理解等に関わる内容に触れていきたい。</li> </ul>			

## 【自己評価】

<b>12. 苦勞した点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のSDGsの達成のための課題の1つである「共生社会」の実現を実感してもらうため、どのような題材を扱うのか、どのような地域の資源を活用するかについて、ものすごく悩んだ。</li> <li>・「地理総合」は2単位の科目のため、限られた時間の中で単元計画を工夫していかなければならないことについても悩んだ。</li> </ul>
<b>13. 改善点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「共生」という言葉を最初に用いてしまうと、教師も生徒も分かった感覚で授業が進んでしまうため、最後まで言葉をあえて出さない方が、理解が深まっていくことがわかった。</li> <li>・限られた時間での展開ですが、その時間内でも生徒たちの理解が深まるように、教師側も適切に言葉を選んで、授業展開をしていかなければ、ワークシートの回答も浅いものになってしまうことがわかった。</li> </ul>
<b>14. 成果が出た点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業がきっかけなのか、授業が進んでいくにつれて、このクラスでは他者の意見も尊重できるようになっていった。自分ごととして捉えられるようにすることはすごく重要であると考えている。</li> <li>・他国との接点が特に地方では少ない状況であるが、それでも技能実習生が近くに来られたりすることもあること、すでに北海道でもグローバル化が生活圏の一部になっていることを伝えることができたのでは、と思っている。 1学年の様子を受けて、他学年でも「私たちもぜひ他国の方と交流したいです」との声が上がっている。</li> </ul>

<p>15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>※以下は実際の生徒のワークシートの記述の一部である。</p> <p>Q. JICA 研修生との交流を通して気づいたこと・考えたことはどんなことですか？</p> <p>→・思ったよりも言葉の壁がなかった ・世界をもっと知りたいと思った</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日系の人々がどのように生活をしているかが知れた</li> <li>・国籍が違って、自国の文化を通して仲良くなれることに気づいた</li> </ul> <p>Q. 授業前と現在で、あなたの考えにどのような変化がありましたか？</p> <p>→・その土地の文化に（実際に）触れることが必要であると感じた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初はコミュニケーションが取れるか不安であったが、実際に交流してみても楽しかった。もっとたくさんの人々と交流してみたいと感じるようになった</li> <li>・みんな仲良く、差別が無くなる世の中にしていきたい</li> </ul> <p>Q. 学習を通しての新たな問い</p> <p>→・他国の人々とより親密になるためには、何が必要なのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしたら差別がなくなるのか</li> </ul>
<p>16. 授業者による自由記述</p>	<p>この指導案作成前の事前研修において、「外部人材の選び方はものすごく重要であり、目的が達成されるように綿密な計画と打合せが必要だ」というようなことが、参加者の先生方と共有されていたが、実際に授業を終えてみて、その言葉の真意が理解できた。目の前の生徒に対して、何を学ばせたいのか、そして学ばせた後にどのような生徒になってほしいのか、などと綿密に計画を立て、その計画が必ず達成されるように授業案を組み立てなければ、ただ時間が過ぎていくだけになってしまう。</p> <p>今回の授業実践でそのことを実感できたことは、今後の教員人生に大きな良い影響をもたらすと思っている。</p> <p>今後も、国際理解について内容を深められるよう、教員の私が研鑽し、正しい知識や認識で生徒を指導していけるよう努めていきたい。</p>

参考資料：

- ・令和3年3月 埼玉県社会教育委員会「令和元・2年度埼玉県社会教育委員会における議論の整理」
- ・令和元年8月27日 文部科学省「平成29年度 高等学校等における国際交流等の状況について」
- ・2019年11月 文部科学省「外国人の受入れ・共生に向けた文部科学省の取組概要について」
- ・JICA 横浜 海外移住資料館 いみんトランク (URL:<https://www.jica.go.jp/jomm/education/imin.html>)
- ・JICA 横浜 海外移住資料館 中南米移住地記録写真集 1964  
(URL: <https://jommdms.jica.go.jp/fmp/1964top/>)

点検印

① 今回の授業タイトル

「共生」とは？

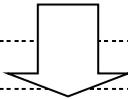
② 板書

本時の問い

互いに「共生」を図っていくためには、どのような考え方が必要であるか？

Q. JICA 研修生との交流を通して気づいたこと・考えたことはどんなことですか？

[Blank area for student response]



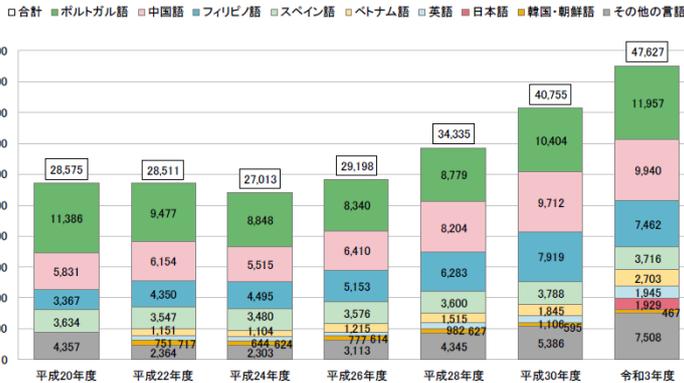
Q. 日系人の高校生である亜島マリオさんが、アルゼンチンから興部高校1年A組に入学をしてきました。日本語が理解できず困っており、他学年の生徒からもからかわれたり、授業も理解できず、興部町での生活も辛いものになっています。亜島さんが楽しく学校生活を送れるためには、どうしたらよいでしょうか？



Tengo problemas para entender japon é s.  
 Quiero llevarme bien con todos, pero..  
 (※アルゼンチンの公用語：スペイン語)  
 (私は日本語が理解できません。みんなと仲良くしたいけど…)

(参考)

平成29年度 高等学校等における外国人留学生(3か月以上)の受入れ  
 …2,621人 (※出典：文部科学省「平成29年度 高等学校等における国際交流等の状況について」)



←日本語指導が必要な外国籍の児童生徒の言語別在籍状況

(※出典：令和4年3月 文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査結果の概要(速報)」)

※スペースの都合上、枠の大きさは小さく調整しています。

(これまでの学習を踏まえて、以下の答えを出そう)

Q. 「共生」を図るために、必要なことはどのようなことですか？

※スペースの都合上、枠の大きさは小さく調整しています。

Q. アルゼンチンに関する授業前と現在で、あなたの考えにどのような変化がありましたか？

※スペースの都合上、枠の大きさは小さく調整しています。

③学習を通しての新たな問い

## 亜島 マリオさん



- 家族構成  
父（日系）、母（日系）、マリオさん、妹（日系）
- 日本に来た経緯  
父が働いている会社で異動があり、アルゼンチンから興部へ転勤、それに合わせて一家で興部町に住むことになった。
- マリオさんの心境は？  
日本語があまり話せず、コミュニケーションに困っている。

<事例A>



アルゼンチンから来日した  
興部高校1年生Aさん

「このベンチの色、なんかお前の顔の色に似ているよね。」



1年生のBさん

「なんでサッカーが有名な国から来たのに、サッカーができないの？」



1年生のCさん

<事例B>



アルゼンチンから来日した興部高校生Tさん

「確認してごみを持って行っているのに、なんで僕だけが疑われるのだろうか？」

「間違ったところへごみが捨てられているから、注意して！」  
「急のため、内容が書かれた紙も渡しておくから！」



興部高校2年生Sさん

①今回の授業タイトル

補助プリント（事例を通して、文化摩擦を考えよう）

②板書

<事例A>

アルゼンチンから来日した肌の黒い興部高校1年生Aさんは、ある日教室でBさんとおしゃべりをしているとき、Bさんに、「このペンケースの色、なんかお前の顔の色に似ているよね。」と言われました。別な日には、Cさんに「なんでサッカーが有名な国から来たのに、サッカーができないの？」と言われました。

Q. このような発言に対して、Aさんはどのような気持ちだったのでしょうか？

Q. BさんやCさんの発言についてどう思いますか？

<事例B>

アルゼンチンから来日した興部高校生Tさんは、授業終了後の掃除で出た燃えるごみを毎回集積所へ持っていき、所定の場所へごみを捨てます。ある日Tさんが教室へ帰った後、先輩が来て、Tさんに「間違ったところへごみが捨てられているので、注意して」と言い、さらに英語に訳された注意の紙もTさんに渡しました。

Tさんは「何度も確認しながら捨てていて、ごみの捨て方に間違いないのに」と思って、清掃の担当教員に相談したところ、間違って捨てていたのは、注意した先輩が所属するクラスの人であったことがわかりました。

Q. このときのTさんはどのような気持ちだったのでしょうか？

Q. なぜこのようなことが起こってしまったのでしょうか？